

である。

### (3) 其他の障害修理

架空ケーブル又は地下ケーブルにして浸水以外の障害例へばケーブル内で心線が断線したり或は混線し或は接地する場合等がある。此の場合には其の鉛被切開き部分に鉛管を使用して鉛工し固封する。

## 第四節 線路明細及線路圖の調整

線路に對しては其の現在を明らかにする爲めの線路の明細、線路の經過地等を詳細記載したる次の如きものを備付け、常に之が訂正を怠らない様注意せねばならぬ。

### 1. 線路明細表

幹線名、電柱番號、本柱の長、支柱、支線柱、支線の有無、電柱防腐種類、柱間距離、建設年月、腕木腕金碍子の種別及個數、架線種別條數、架線位置、將來増設し得る最大容量、引込加入者番號、引込線種類等を記入したるもの。

### 2. 加入區域及分局區域圖

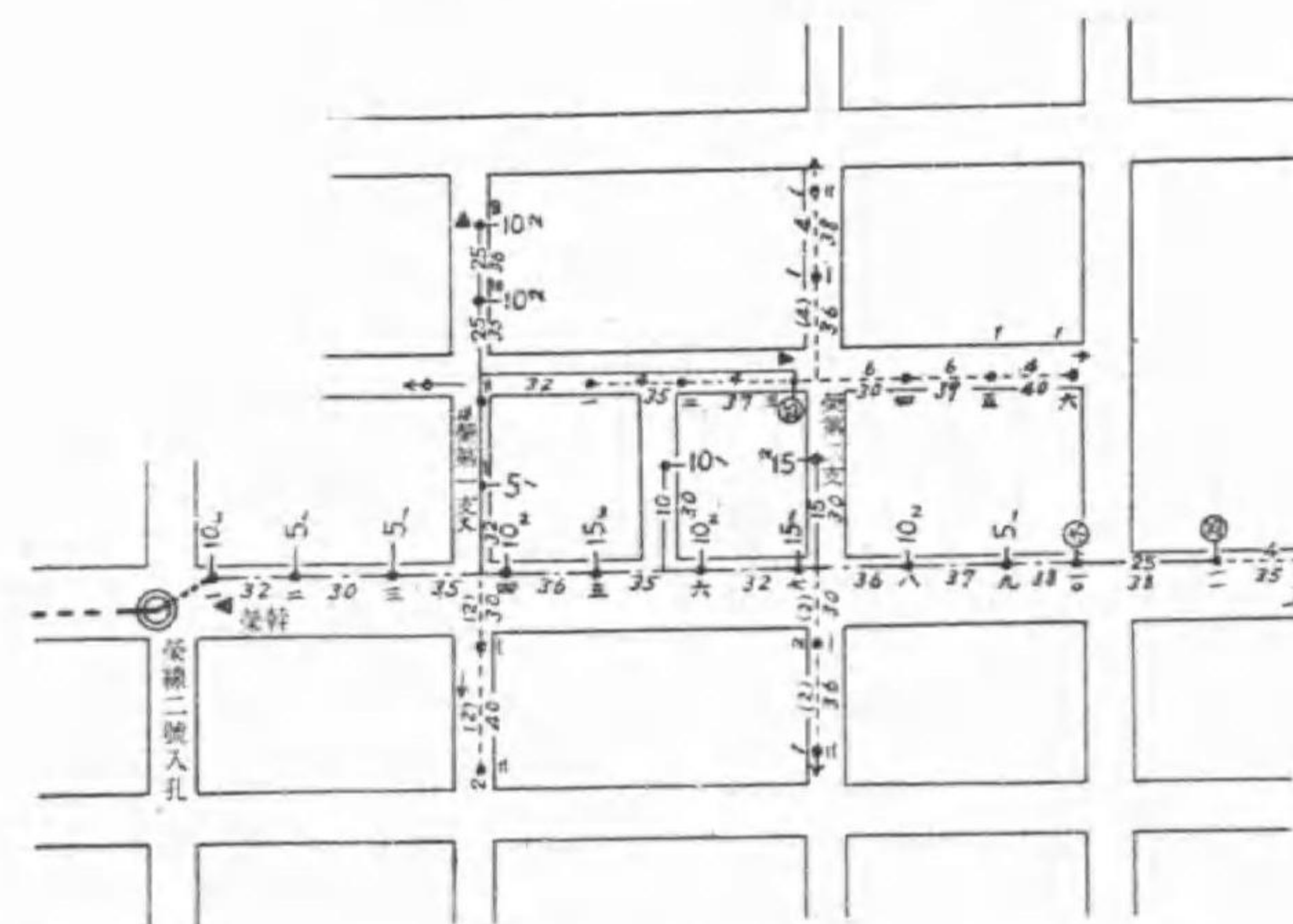
普通加入區域、區域外加入區域を記入し、分局ある都市では分局區域、局舎位置を縮尺約 2000 分の一(大都市では適當の縮尺)の市街地圖に記入するもの。

## 3. 架空線路明細圖

第 260 圖の如く河川、鐵道、軌道、堀其の特殊のものを記載したる縮尺約 2000 分の一の地形圖に次のものを記入したるもの。

- (1) 電柱位置及番號並に柱間距離、支線支柱位置
- (2) 架空ケーブル經過位置、條數及ケーブル種別
- (3) 配線函又は端子函位置及容量にケーブル接續狀態
- (4) 裸線路經過位置及架渉回線數
- (5) 地下線種及マンホール番號を記入したる地

第 260 圖 架空線路明細圖



備考 ● 電柱 ▲ 支柱 ← 支線 裸線經過ルートを示し 4 は裸線四回線を (2) はゴム線二回線を架渉せることを示す  
架空及び地下ケーブル並に端子函配線函はケーブル線路圖凡例に示す記號を以てす



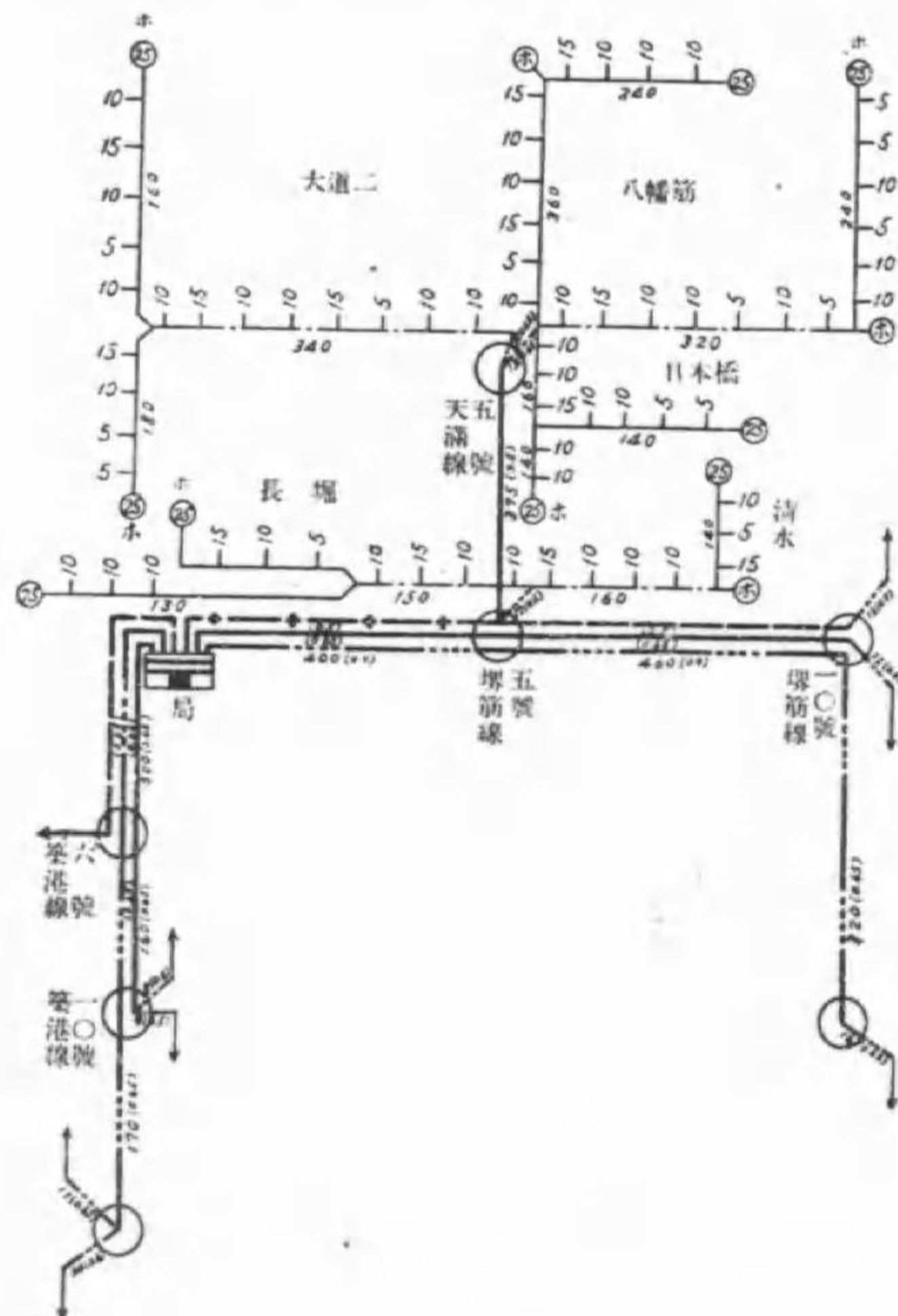
下線經過ルート及引上マンホール位置

(6) 電柱引落加入者數

4. ケーブル線路圖

第 261 圖の如く地下ケーブル及架空ケーブルの種別及分岐點間の距離、引上マンホール又はハンドホール番號、配線函端子函接續位置及幹線名等ケーブルの配線系統を記入したるもの

第 261 圖 甲 ケーブル線路圖



第 162 圖 乙

ケーブル線路圖  
記入心得

- 一、ケーブル線長は米を單位として記號外に數字にて記入すること
- 二、並裝ケーブルに對しては前項數字に「並」を冠すること
- 三、ケーブル線名及配線名は簡明に記入すること
- 四、補助端子函に兼用せる配線函若は端子函には夫々の記號に「ホ」を附記すること

凡 例	例	同	對	同	對	同	對	同	對
電話用千二百對	同	五百對	同	十對	同	十對	同	十對	同
ケーブル(地下線)	同	五百對	同	十對	同	十對	同	十對	同
同千	同	五百對	同	十對	同	十對	同	十對	同
同八百對	同	五百對	同	十對	同	十對	同	十對	同
同六百對	同	五百對	同	十對	同	十對	同	十對	同

5. 地下電話線路圖

第 262 圖の如くマンホール、ハンドホール、スリーブの位置及番號引上分線鐵管、トラフ、管路種別及ダクト數並に線長、加入者用中繼用電信市外電話用ケーブル種類及條數を記入したるもの。

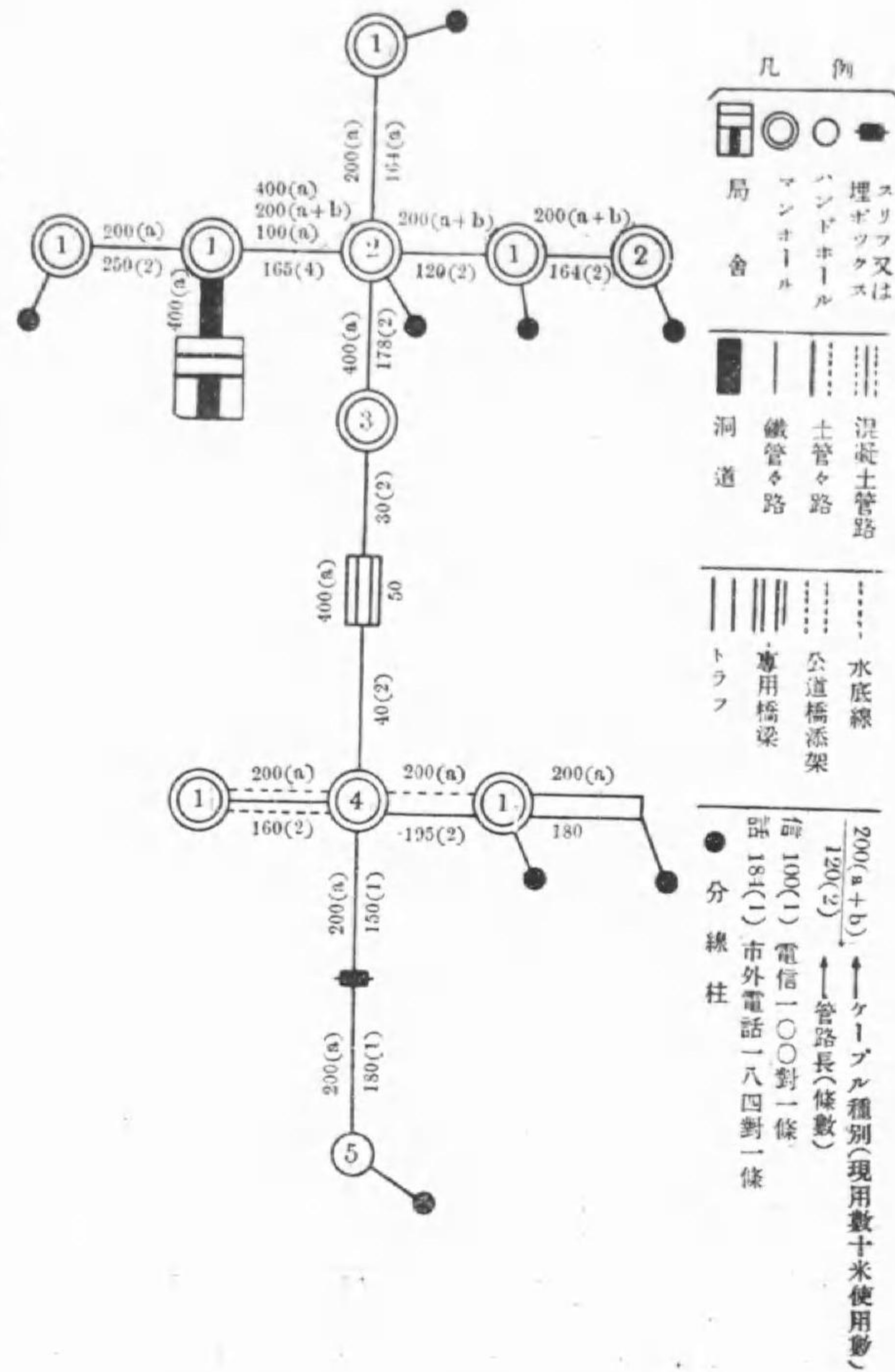
6. 地下ケーブル分岐接續圖

第 263 圖の如く次の如きものを記入したるもの

(1) 局名及局位置、地下線路名



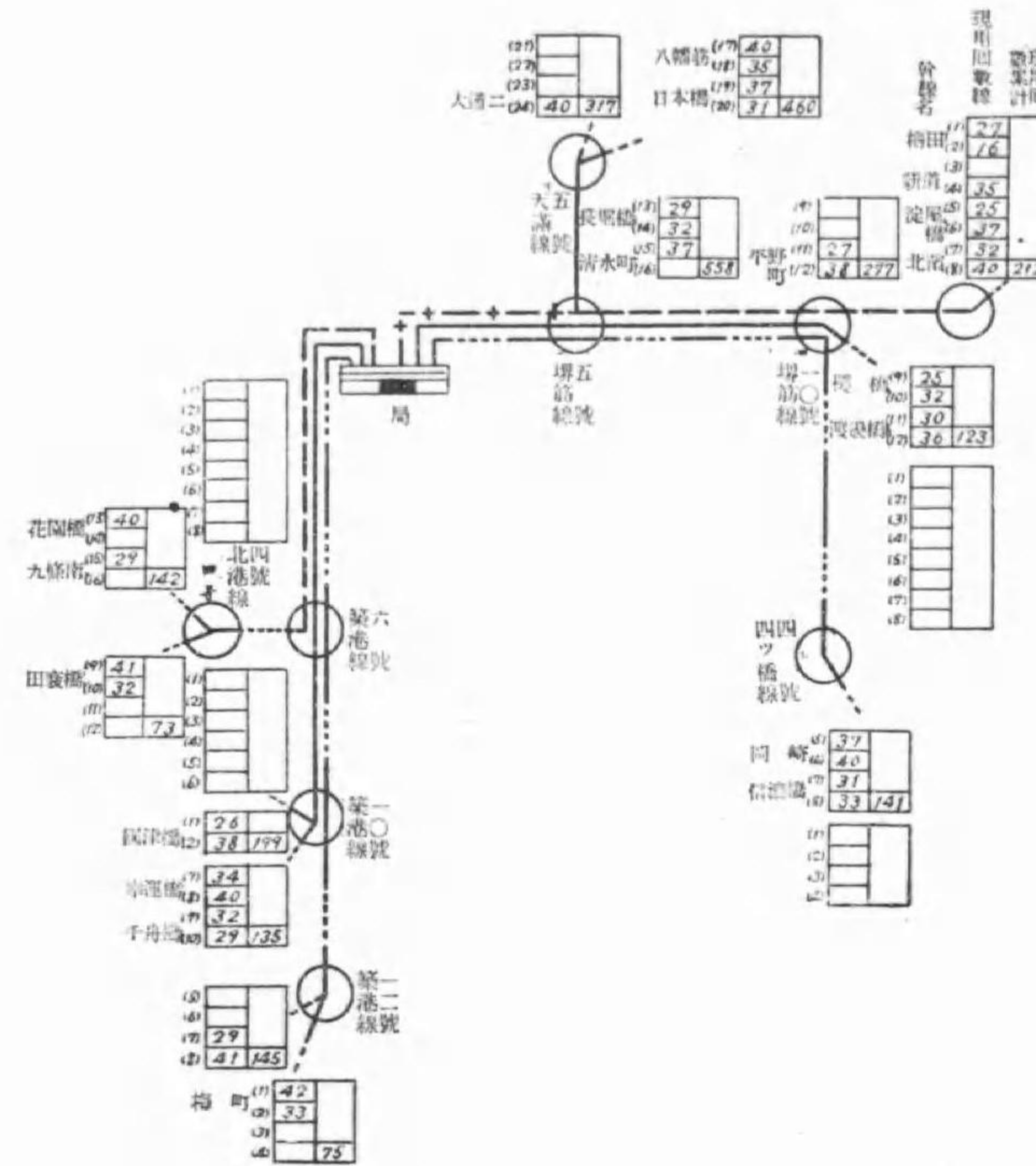
第262圖 地下電話線路



- (2) 地下ケーブル心線の接續状態、分岐引上状態
- (3) 現用ケーブル未使用ケーブルの區別
- (4) 分岐引上マンホール、バンドホール、スリヤ

アの番號

(5) 分岐引上點に於ける現用回線數及其の累計



第263圖 地下ケーブル分岐接續圖

7. 通話能率分布圖

第261圖ケーブル線路圖に次のものを記入したるもの。

- (1) 線長記入個所に導體抵抗と減衰損

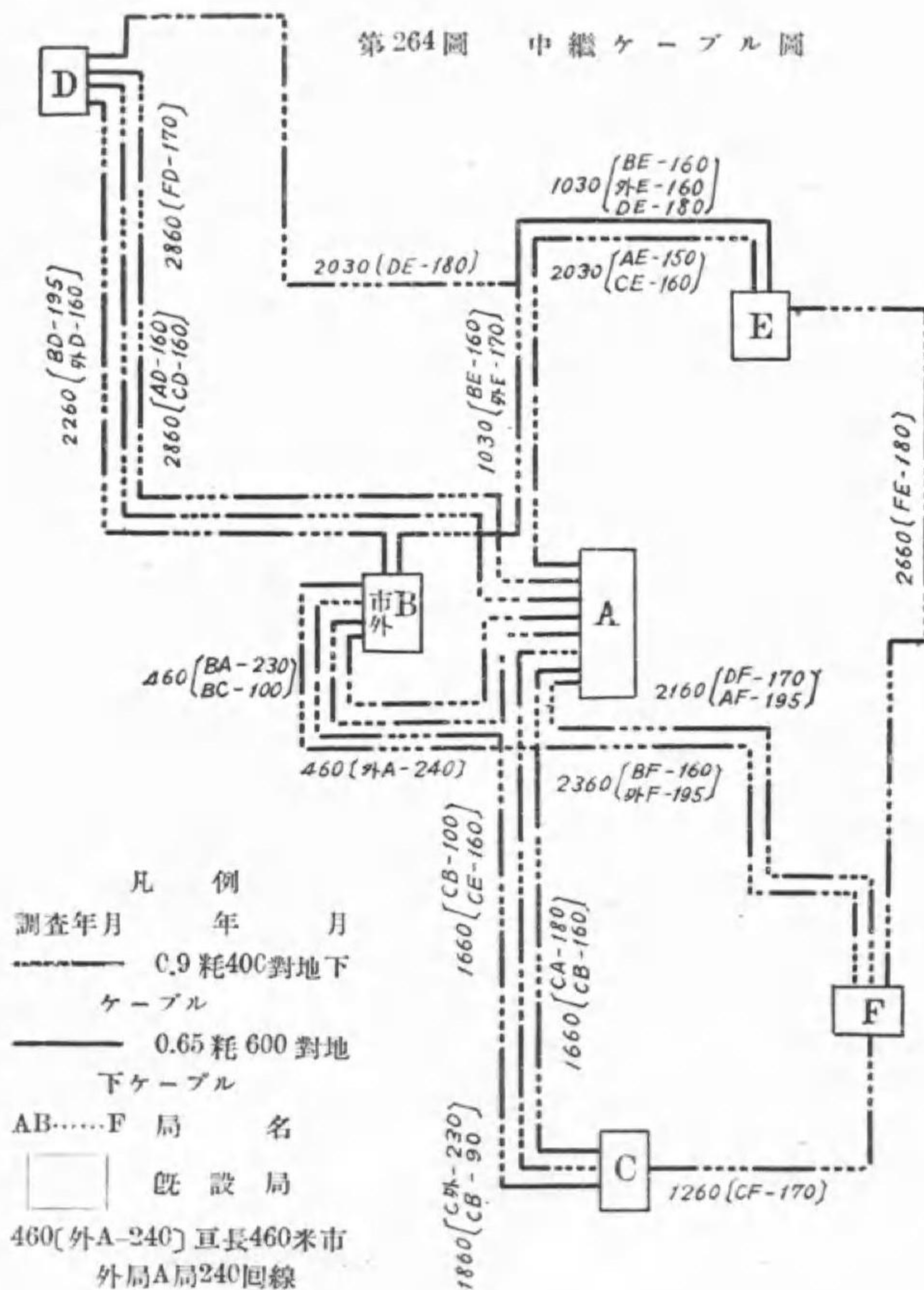


(2) 地下及架空のケーブル終端に導體抵抗の合計及減衰損の合計

(3) 架空ケーブルの終端に電流供給損

### 8. 架空及地下ケーブル經過位置圖

市街地圖に地下ケーブルを太線とし架空ケーブル



ルを細線とし其の經過位置及局舎位置を記入したるもの

### 9. 中繼ケーブル圖

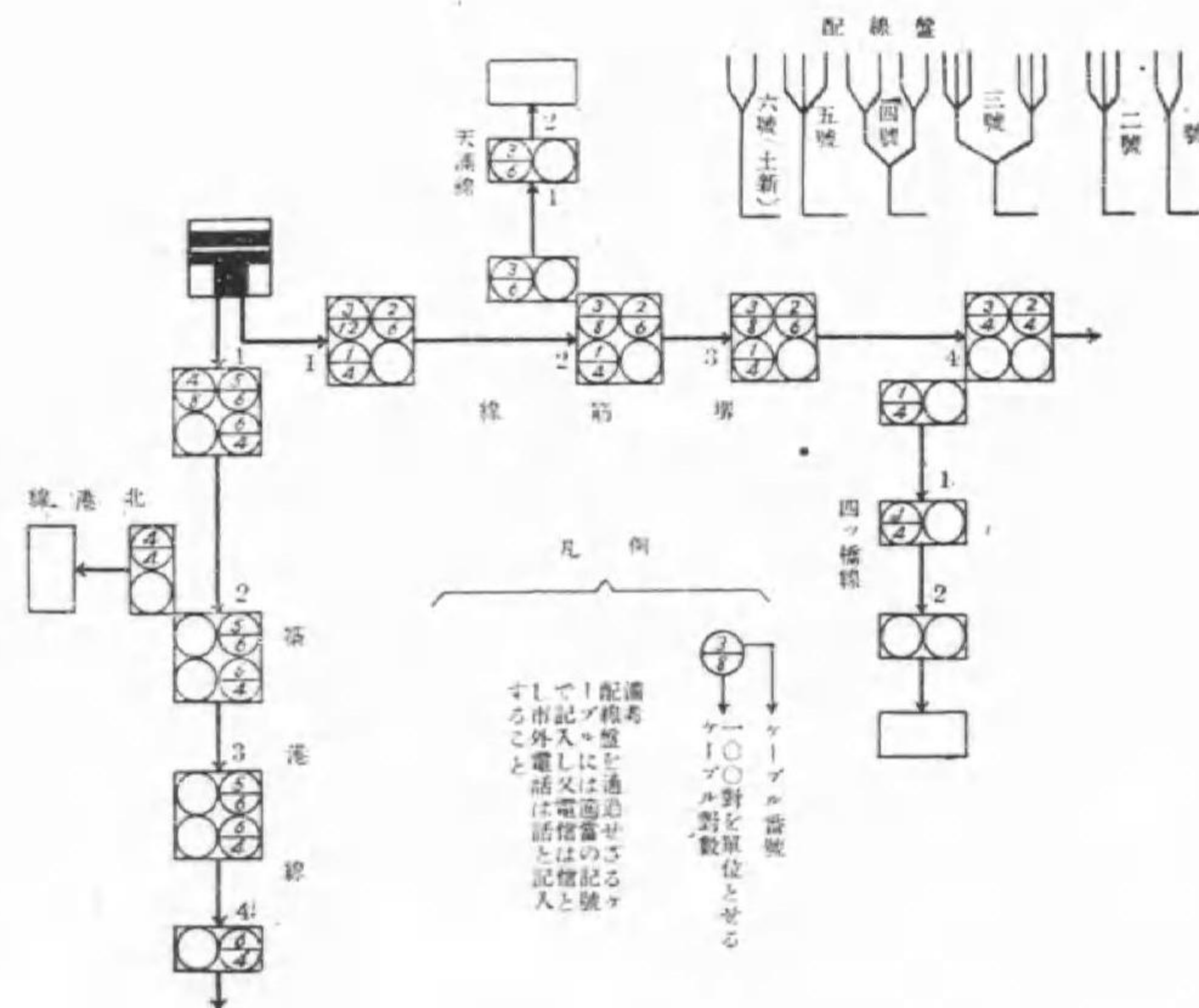
第264圖の如く局舎位置、ケーブル種類、現用回線數を記入したるもの。

### 10. 中繼線經過位置圖

市街地圖に局舎位置、中繼ケーブル種類、中繼線經過位置を記入せるもの。

### 11. 地下ケーブル位置及配線盤位置圖

第265圖の如く地下ケーブルを引込みしたるダ



第265圖 地下ケーブル位置圖及配線盤位置圖



クト位置をマンホール又はハンドホールの平面圖として加入者方面だけを記載し、一面配線盤に收容せるケーブルの番號を圖示し、ダクト内に引込せるケーブルの番號及對數を記入するもの。

## 第十五章 電柱防腐

電柱に素材の木柱を使用すると間もなく腐朽するものであるが、防腐劑を注入したものを使用すると、其の腐朽を遅くし、電柱の壽命を永からしめるものである。

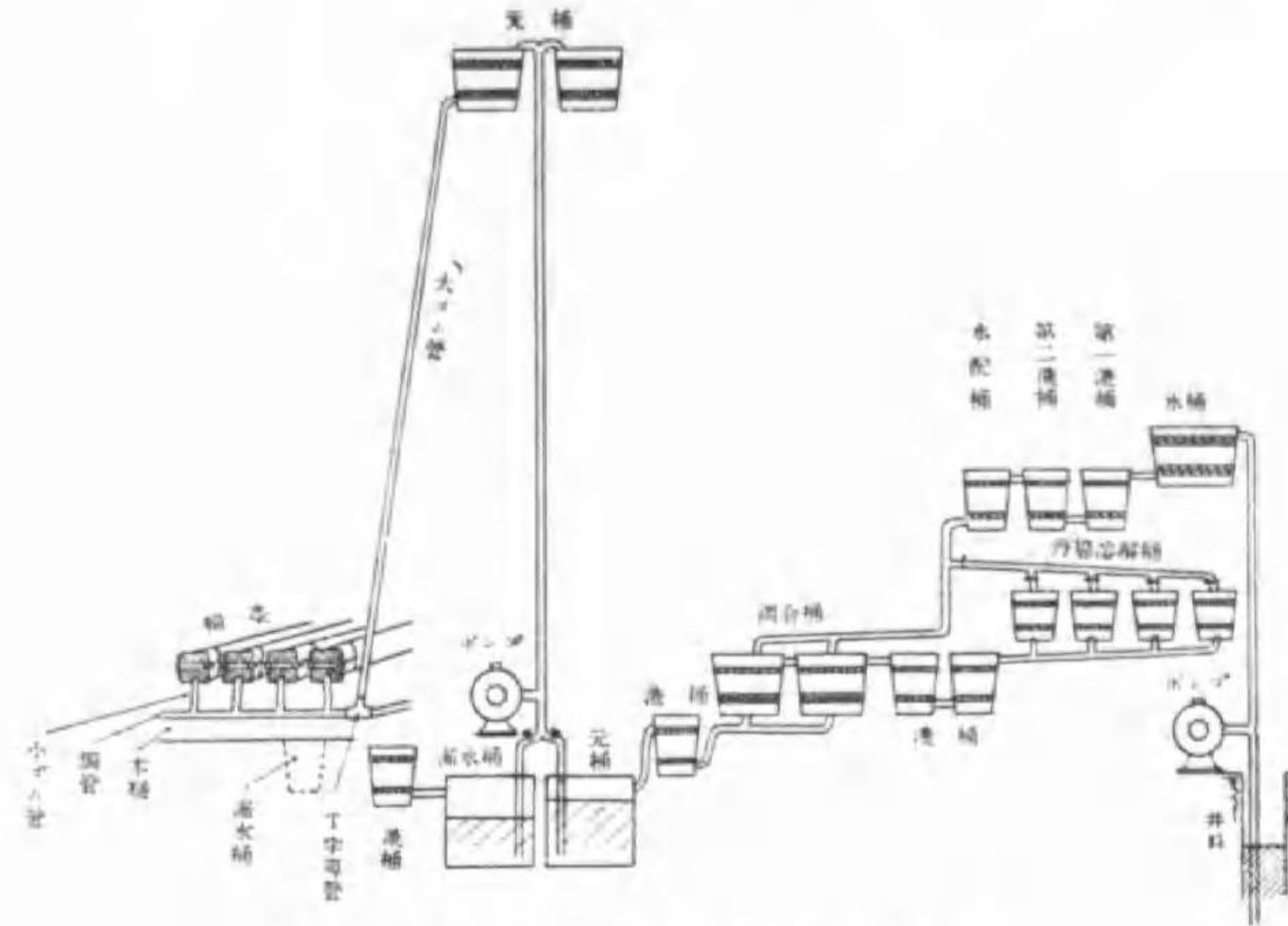
電柱に注入する防腐劑の重なるものは、硫酸銅、クレオソート油、バジクツド、アクゾールの如きもので、我國では主として硫酸銅及クレオソート油を使用して居る。

### 第一節 硫酸銅注入

硫酸銅注入は伐採したばかりの生木に、水80硫酸銅1の割合に調合した硫酸銅液を第266圖の如く元桶内に容れ、之を櫓の上部に置き、元桶の下部に取付けてある呑口に大ゴム管を取付けて下降し、地上のT字導管に接続し、夫れより輪臺<sup>ワッダ</sup>の前方に配置してある左右の銅管へ導き、銅管に多數の小ゴム管を取付けて、輪臺に乗せたる各柱材の元口に、此の小ゴム管を連絡し、櫓の高さに相當する水壓で柱材の元口より壓入し、柱材の白身全部に注入する方法で、外觀黃褐色で電柱建設中或は建設後、液の滲出なく、實用壽命は市内線路用として16年以上ありとして居る。



之が注入方法の概要を述べれば次の如くである。



第 266 圖 硫酸銅注入装置

1. 注入設備

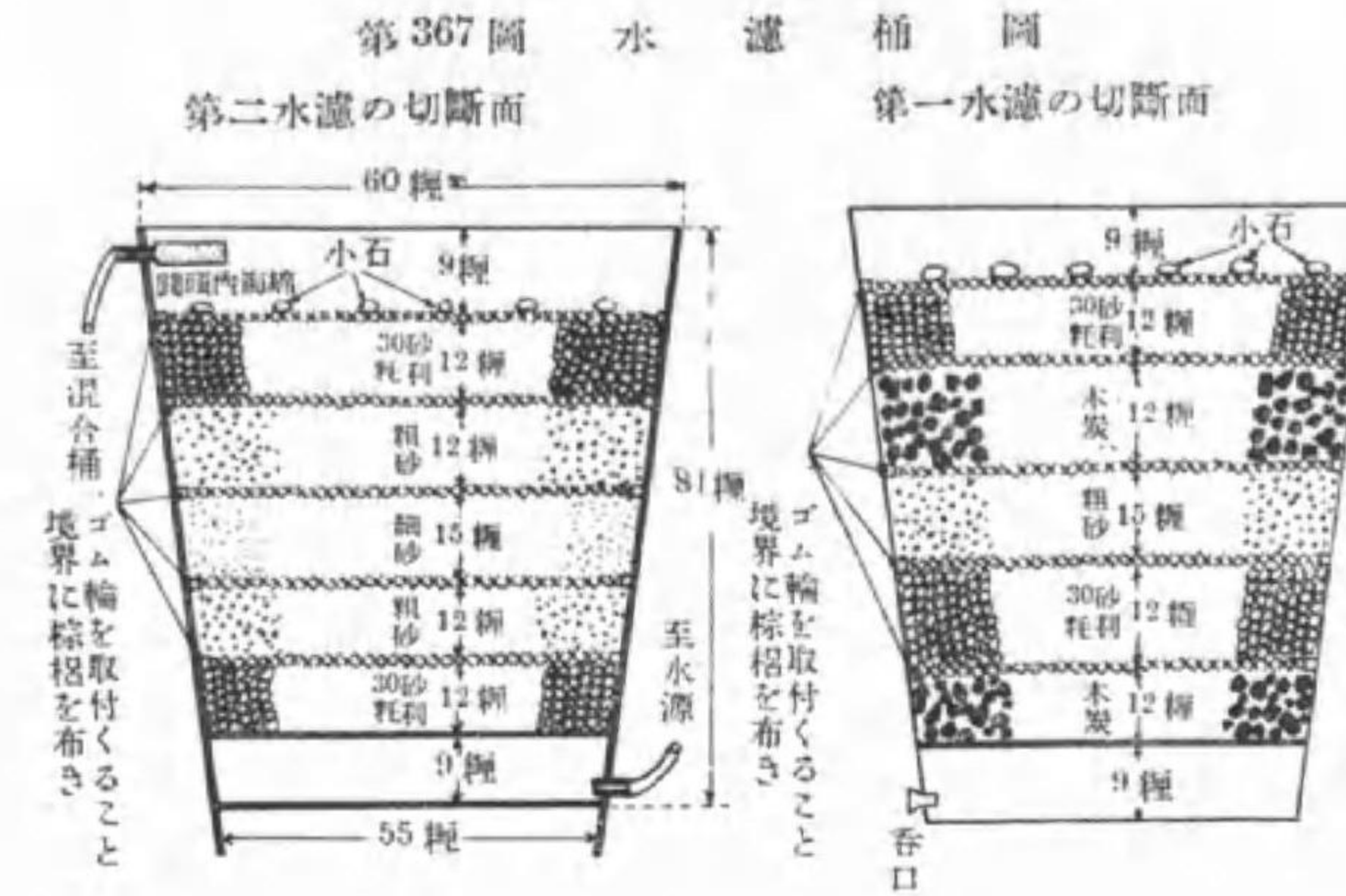
槽の高さは柱材の長さによつて異なるもので、柱材 9 米以下は高さ 9 米とし、柱材 12 米以下は高さ

10.5 米とし、大ゴム管は柱材 100 本以下の場合 1 本とし、又柱材 100 本以上の場合 2 本とする。

槽の中段には第 266 圖の如く水汲ポンプ薬液汲上ポンプ及第 267 圖の如き水濾桶、薬液溶解桶、薬液調合桶、薬液漉桶を、又下部には薬液元桶及漏水桶を装置する。

又輪臺は柱材の元口を支持する方を地上約 1 米とし、末口を支持する方には丸太類を下敷として斜に低下せしめる。又輪臺の前に木樋を配置し木樋

の一端に漏水桶を埋め、元口より漏出する薬液を集め、之を濾して再用する様に装置してある。



2. 注入仕掛

電柱に薬液を注入するには、柱材を皮付の儘元口を輪臺に乗せ、元口を平に切斷し、其の上に新聞紙類を當て、更に其の上に縁に沿ひ第 268 圖の如く幅約 15 耗のゴム板片で其の元口に相當する環とし、銅釘で之を留め第 269 圖の如く呑口を附けた押木を當て、元口より約 60 厘の所に鐵線で緊結したる鍵形真棒で、押木を捻締め、ゴム環と元口との間の上部に竹又は銅線の小片を挟み、銅管と押板の呑口との間を小ゴム管で連続して薬液を元口面に通ぜしめ、元口とゴム環との間に豫め挟んである竹又は銅線の小片によつて、元口面の空気を排除し、硫酸銅液を元口の全面に注がしめて後、其の小片を抜取るのである。



斯くして注入を開始してから2分から7,8分目を経過すると、樹液は硫酸銅液に押されて末口より滴水し始め、此を滴水と云ひ、此の経過時分を滴水時分と云ふて居る。



### 3. 注入仕上

滴水を始めてから時間の経過するに従ひ、末口の白身の部分は漸次青色に變り、更に緑褐色となるので、赤身を除き末口全部が緑褐色となつた時は、柱材の全部に薬液が廻つた時である。

然れども柱材に大節があると、液の通過を阻害するから、他の部分がよく通過して居ても節の先は通過が遅いのが普通である。

又上側には液がよく通過せるも、下部の半面か變

色しない場合があるから、疑はしいものは末口を0.3厘位切り取つて清水で洗つて認定する。

完全に仕上つた時は、元口の小ゴム管を挟んで薬液を止め、鍍形真棒を緩め、押木、押板、ゴム板等を取外して輪臺から柱材を取除くのである。

注入に要する時間は柱材の素性、長短並に注入する時季によつて異なるけれども、先づ5日乃至10日間位を普通として居る。

### 第二節 ベセル式クレオソート注入

ベセル式クレオソート注入は木材の細胞間をクレオソート油で充滿させるもの即ち充細胞法であつて、外觀濃黒色で電柱建設中或は建設後、油の滲出多量のもので實用壽命は市内線路用として18年以上ありとして居る。

之が注入方法の概要を述べれば次の如く前排氣操作して薬液を壓入し、後排氣操作をする。

#### 1. 前排氣操作

乾燥程度1立方メートルの重量600疋以下の素材を圓筒車に積載し、軌道秤量器で、注薬前の重量を測り、重量及材積を記入したる後、之を注薬罐内に引入れる。

注薬罐の戸を閉ぢ、之を緊く締付けてから、排氣ポンプで罐内の空気を充分排除する。



## 2. 薬液注入操作

次に薬槽から約80°Cに加熱せるクレオソート油を注薬罐内に注入し、其の充滿した時の計量槽のゲージを讀み、次に加圧ポンプを働かし、一平方糎に付7乃至10.5 疋(100磅乃至150磅)の壓力で注薬罐内を加圧注入し相當時間を持続してから、計量槽のゲージを讀み、注薬の壓入を終る。

## 3. 後排氣操作

次に排氣ポンプで罐内空氣及木材表面に近い餘分の薬液及残油を排除して注薬を終る。

注薬を終れば圓筒の戸を開き、圓筒車を引出し、軌道秤量器で秤量し、前後の差で注薬量を算定する。

此の時注薬量が仕様書の規定以下であれば再び注薬罐内へ送り戻し、更に注薬操作をする。

## 4. 薬液注入量

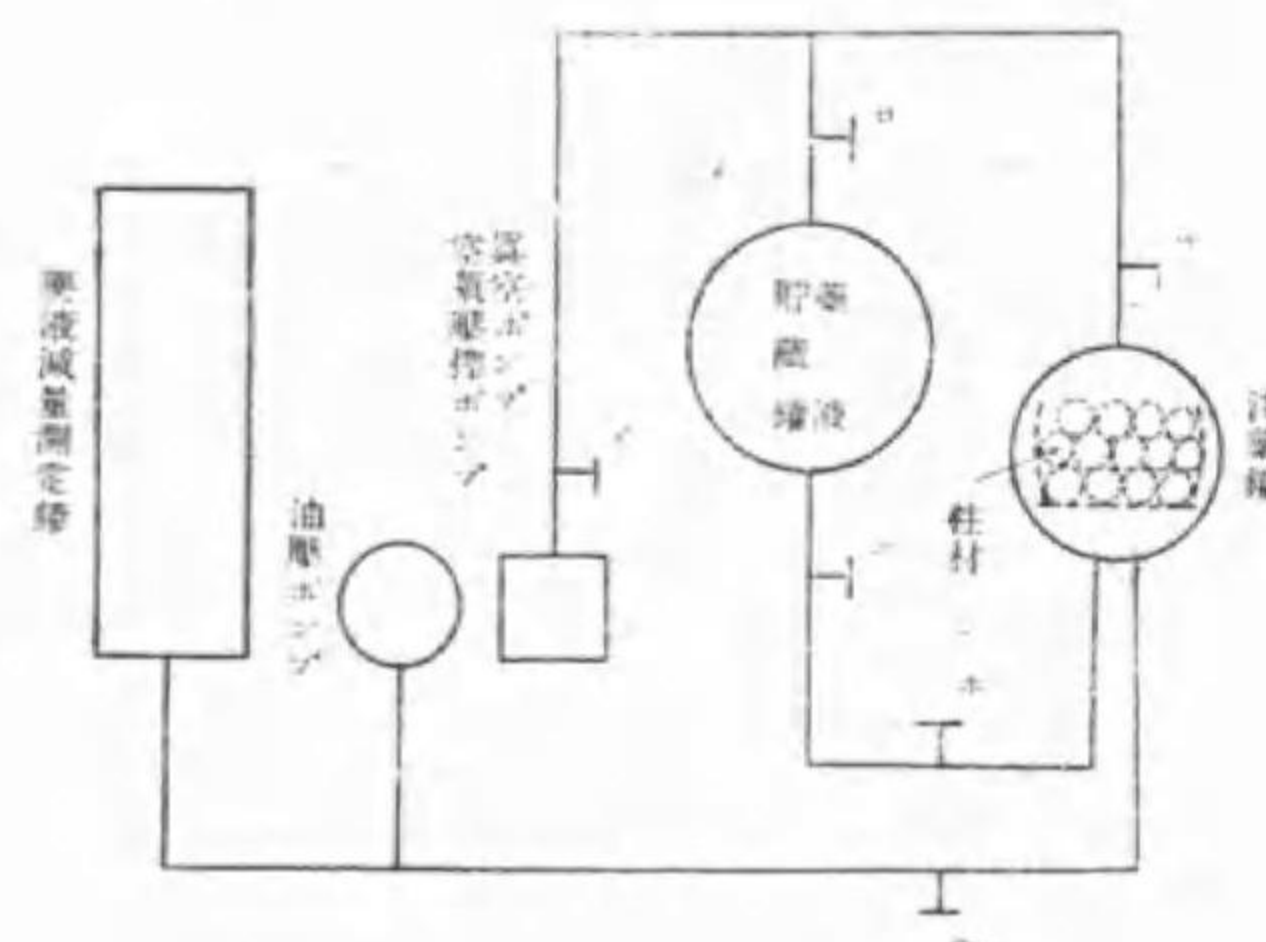
斯くして薬液注入量は注入前後の重量の差であつて1立方米に付160疋乃至200疋を標準として居る。

### 第三節 リューピング式クレオソート注入

リューピング式クレオソート注入は木材の細胞間に、一旦壓入したクレオソート油を又細胞中より全部排出し、防腐劑を一應浸潤せしめたに過ぎない

もの、即ち空細胞法であつて、外觀薄黒褐色で、電柱建設中或は建設後、油の滲出なく、實用壽命は市内線路用として、我國では採用日尙淺いので不明であるがベセル式クレオソート注入のものより長いと稱ぜられて居る。

之れが注入方法の概要を述べれば第270圖の如く装置し、次の如く前壓操作して薬液を壓入し、後排氣操作をする。



第270圖 リューピング式クレオソート注入装置

### 1. 前壓操作

乾燥程度1立方米の重量600疋以下の素材を圓筒車に積載し、之を注薬罐内に引入れて注薬罐の戸を閉ぢ、之を緊く締付けてから、(イ)(ロ)(ハ)バルブを開き空気壓搾ポンプで、薬液貯藏罐及注薬罐を1平方糎に付4.2疋迄上昇せしめ、4.2疋を以て罐内空氣を20分間持續する。



## 2. 薬液注入操作

次に注薬罐内の壓力を 4.2 疋に保持しつゝ、(イ)バルブを閉ぢ、(ニ)(ホ)バルブを開くと、豫め 65°C に保つてある薬液貯藏罐のクレオソート油は注薬罐内に自己の重量によつて流入する。此の時注薬罐内にある空氣は薬液貯藏罐内にある空氣は薬液貯藏罐内に逸出し、茲に注薬罐内の空氣は薬液貯藏罐内と置き換へられ、注薬罐内は薬液で充たさるゝ様になる。

注薬罐内にクレオソート油が充滿した時、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)バルブを閉ぢ、(ヘ)バルブを開き、油壓ポンプで薬液減量測定罐より、一平方糎に付き 9.8 乃至 11.3 疋の壓力を加へた油を注薬罐内に送入すれば、素材が注入さるゝに従ひ、薬液減量測定罐にある背針の目盛で、其の注入量を知ることが出来る。

## 3. 薬液注入量

薬液注入量は一立方米に付 200 疋以上として居る。

此の注入量は加壓前後に於ける薬液減量測定罐の薬液減量である。

## 4. 後排氣操作

次に(ヘ)バルブを閉ぢ、(ロ)(ハ)バルブを開くと油壓によつて、注薬罐内の薬液は薬液貯藏罐内に逆流され、空氣は逸散する。

(イ)バルブを開き真空ポンプを働かし、注薬罐内を 700 疋以上の真空度とし、之を約 1 時間持續し、出來得る限り餘分の薬液を木材より排出せしむる。

## 5. 薬液残留量

右操作を終れば真空を常壓に復し、圓筒の戸を開き圓筒車を引出し、又後排氣操作後のクレオソート油排出數及殘數を秤量する。其の残留量は 1 立方米に付 70 乃至 80 疋として居る。

## 第四節 其他の防腐

### 1. バジリツド注入

バジリツド注入は弗化曹達 89% デニトロ・フェノール、アニリン 11% を成分とせる黄色のバジリツドを重量に於て水 80 バジリツド 1 の割に調合した液を、ベセル式クレオソート注入と同一方法で注入するものであつて、唯此際は後排氣だけ爲さない注入量は 1 立方米に付 200 疋以上として居る。本防腐法は我國では採用日尙淺いので、其の壽命は不明である。

### 2. アクゾール注入

アクゾール注入は銅及亞鉛のアンモニエートを含む防腐劑を、ベセル式クレオソート注入と同一方法で注入するもので、我國では採用日尙淺いので、其の壽命は不明である。



# 圖 索 引

## 圖 索 引 (下)

	頁
第139圖	ケーブル心線の直線接続..... 3
第140圖	ケーブル心線のV接続..... 5
第141圖	ケーブル心線のT接続..... 6
第142圖	普通形市内ケーブル相互の接続..... 8
第143圖	ユニット形市内ケーブル心線のランダム・ジョイント.....12
第143圖 甲	心線のランダム・ジョイント.....12
乙	ランダム・ジョイントせる心線の交叉状態.....12
第144圖	同一對數のケーブル内同色ユニット相互の接続.....13
第145圖	ユニット數奇數なるユニットケーブルの一方を反對 方向に布設したる場合のユニット相互の接続(600 對ケーブルの外層の例).....14
第146圖	直線形鉛工.....22
第147圖	V形鉛工.....22
第148圖	Y形鉛工.....22
第149圖	X形鉛工.....22
第150圖	三肢形鉛工.....22
第151圖	胴繼形鉛工.....23
第152圖	堅割形鉛工.....23
第153圖	胴繼形鉛工の胴繼部の鉛管嵌合圖.....25
第154圖	堅割形鉛工用鉛管の堅割部斜切圖.....26
第155圖	ケーブル端の固封.....26
第156圖	鍍装ケーブル接続の位置.....31
第157圖	銅帶鍍装ケーブル接続圖(平面圖).....32
第158圖	鐵線鍍装ケーブル接続圖(側面圖).....33
第159圖	地下ケーブル接続鉛管の位置.....35
第160圖	架空ケーブル接続鉛管の位置.....35
第161圖	ケーブル心線の絶縁抵抗器試験.....36
第162圖	地下ケーブルの接続順序.....37
第163圖	ケーブル心線の絶縁抵抗試験.....38
第164圖	不良心線の處理例(太線は不良心線).....38
第165圖	ケーブル心線の對連接続.....39
第166圖	ケーブル心線の漏話程度略試験法.....39



第167圖 中繼ケーブルの漏話試験區間……………40

第168圖 ケーブル鉛被の絶縁接續圖(屋外水平施設)……………42

第169圖 ケーブル鉛被の絶縁接續圖(屋外垂直施設)……………45

第170圖 ケーブル鉛被の絶縁接續圖(屋内施設)……………46

第171圖 ゴム線接續成端方法圖……………49

第172圖 甲 エナメル・ケーブル接續成端方法圖(800對ケーブルの場合)……………50

乙 エナメル・ケーブル接續成端方法圖(600對ケーブルの場合)……………50

丙 エナメル・ケーブル接續成端方法圖(400對ケーブルの場合)……………51

丁 エナメル・ケーブル接續成端方法圖(200對ケーブルの場合)……………51

第173圖 直接成端方法圖……………54

第174圖 甲 ケーブル成端に伴ふケーブル分岐方法圖……………59  
(200對乃至600對ケーブルを配線盤に取付ける場合)

乙 ケーブル成端に伴ふケーブル分岐方法圖……………59  
(地下引上室より配線盤迄の深さ3.5米未満なる箇所に800對乃至1200對ケーブルを配線盤に取付ける場合)

丙 ケーブル成端に伴ふケーブル分岐方法圖……………63  
(地下引上室より配線盤迄の深さ3.5米以上ある箇所に800對乃至1200對ケーブルを配線盤に取付ける場合)

第175圖 ケーブル配線形成の概要説明圖……………62

第176圖 架空ケーブルを架渉せる實況圖……………63  
(電柱に端子函を裝置し夫れよりゴム線により加入者に配線せる實況圖)

第177圖 外部屋壁に沿ふてケーブルを架渉せる實況圖……………64

第178圖 加入者連擔地域圖……………64

第179圖 一構内地下引込地域圖……………65

第180圖 特殊集團地域圖……………65

第181圖 架空ケーブルを外部側壁に沿ふて架渉し屋内に直接引込したる實況圖……………66

第182圖 配線地域選定方法圖……………67

甲 ………………67

乙 ………………67

丙 ………………68

第183圖 既設線路に於ける配線地域選定方法圖……………69

甲 ………………69

乙 ………………69

第184圖 各電柱引落し終局加入者分布狀況圖……………74

第185圖 本線ケーブルの局線配分圖……………75

第186圖 本分ケーブルの心線配分圖……………76

第187圖 分岐ケーブルの心線配分圖(分岐補助端子函なき場合)……………79

第188圖 分岐ケーブルの心線配分圖(分岐補助端子函を設備する場合)……………80

第189圖 端子函端子に取付ける心線番號(端子板の表面より見たる圖)……………84

第190圖 端子函又は配線函外部に於ける心線番號表示例……………85

第191圖 補助端子函の構造圖……………86

甲 ………………86

乙 ………………86

第192圖 補助端子函内心線番號表示例……………89

第193圖 架空ケーブルの直線式重複區劃配線地域例圖……………90

第194圖 架空ケーブルの直線式重複區劃配線例圖……………91  
(100對ケーブル心線配分圖)

第195圖 架空ケーブル配線の重複區劃配線例圖……………92  
(100對ケーブル心線番號圖)

第196圖 架空ケーブルの並列式重複區劃配線地域圖……………93  
(2配線ケーブルが同一地下引上點にある場合)

第197圖 架空ケーブルの並列式重複區劃配線地域圖……………94  
(2配線ケーブルが兩方面に分岐せる場合)

第198圖 架空ケーブルの並列式重複區劃配線地域圖(2配線ケーブルが同一地下ケーブルに於ける引上點に有る場合)……………94

第199圖 重複區劃配線の場合に於ける補助端子函の取付位置……………95

第200圖 重複區劃配線の心線番號順位……………96  
(多對端子函相互又は小對端子函相互が重複する場合)

第201圖 重複區劃配線の心線番號順位……………97  
(一方配線區劃が將來反對方向より收容せらるゝ場合)

第202圖 同一配線地域内局線の融通例……………98

第203圖 同一配線地域内豫備線の融通例……………98

第204圖 隣接配線地域の融通例……………100

第205圖 次位端子函又は配線函にマルチプルせる端子函又は配線函増置例……………101



第 206 圖 豫備線を使用せる端子函又は配線函の増置例 .....102

第 207 圖 同一配線地域内の未使用心線を有する端子函又は配線函にマルチプルせる端子函又は配線函の増置例 .....102

第 208 圖 マルチプル増設せる端子函又は配線函の外部表示例 .....103

第 209 圖 補助線にマルチプル増設せる端子函又は配線函の外部表示例 .....103

第 210 圖 同一配線函地域内に於ける共同加入回線收容例 .....104

第 211 圖 隣接配線地域内に於ける共同加入回線收容例 .....105

第 212 圖 連擔地域地下引込ケーブル配線する場合の配線地域の選定 .....107

第 213 圖 連擔地域地下引込ケーブル配線例圖 .....109

第 214 圖 補助端子函代用補助ジョイント方法圖 .....110

第 215 圖 屋内に使用する切替盤の實裝圖 (引込ケーブル對數少き場合) .....111

第 216 圖 屋内に使用する切替盤の構造圖 (引込ケーブル對數多き場合) .....112

第 217 圖 屋外に使用する切替盤の實裝圖 .....112

第 218 圖 一構内地下引込ケーブル配線例圖 (各引込點に於ける終局所要回線分布狀況) .....114

第 219 圖 一構内地下引込ケーブル配線例圖 (100對ケーブル心線番號圖) .....115

第 220 圖 一構内地下引込ケーブル配線例圖 (100對ケーブル心線配分圖) .....116

第 221 圖 特殊集團地域地下引込ケーブル配線例圖 (各引込點に於ける終局所要回線分布狀況) .....116

第 222 圖 特殊集團地域地下引込ケーブル配線例圖 (100對ケーブル心線番號圖) .....117

第 223 圖 特殊集團地域地下引込ケーブル配線例圖 (100對ケーブル心線配分圖) .....118

第 224 圖 屋内ケーブル配線系統圖 .....122

第 225 圖 分岐端子盤實裝圖 .....123

第 226 圖 屋内端子函實裝圖(隠蔽式布線の場合) .....123

第 227 圖 屋内端子函實裝圖(露出式布線の場合) .....124

第 228 圖 屋内ケーブル配線例圖(心線番號圖) .....125

第 229 圖 屋内ケーブル配線例圖(心線配分圖) .....126

第 230 圖 甲 ベル對照法圖 .....134

乙 ベル對照法圖 .....134

丙 ベル對照法圖 .....134

丁 ベル對照法圖 .....134

第 231 圖 プザ對照法圖 .....135

第 232 圖 對違心線の一例 .....136

第 233 圖 電衝對照法圖 .....138

第 234 圖 浸水ケーブル對照法圖 .....140

第 235 圖 局方面切替圖(ジャンパー切替) .....142

第 236 圖 局方面切替圖(ジャンパーマルチプル切替) .....143

第 237 圖 局方面切替圖(假線切替) .....144

第 238 圖 局方面切替圖(假線マルチプル切替) .....145

第 239 圖 中間切替圖(2點間同時切替) .....146

第 240 圖 中間切替圖(マルチプル切替) .....147

第 241 圖 加入者方面切替圖(2點間同時切替) .....148

第 242 圖 加入者方面切替圖(マルチプル切替) .....148

第 243 圖 加入者方面切替圖(假線切替) .....149

第 244 圖 收容替切替圖(マルチプル切替) .....150

第 245 圖 收容替切替圖(ループ切替) .....152

第 246 圖 既設ケーブルの儘ケーブル配線替する方法圖 .....154

第 247 圖 既設ケーブルの儘ケーブル配線替する方法圖 .....155

第 248 圖 新規ケーブルを架渉してケーブル配線替する方法圖 .....156

第 249 圖 配線函内端子の心線取付圖 .....164

甲 端子取付を誤りたる圖 .....164

乙 端子に心線取付圖 .....164

第 250 圖 電燈引込線接近による鉛被損傷 .....171

第 251 圖 道越支線接近による鉛被損傷 .....171

第 252 圖 ケーブル心線より鉛被に放電せし爲めの損傷 .....172

第 253 圖 ダクト際の際の鉛被壓縮 .....172

第 254 圖 ケーブルの無理な彎曲による鉛被の凹凸 .....173

第 255 圖 ケーブル鉛被の伸と膨れ .....173

第 256 圖 1020號C 試驗器による障害發見 (ケーブル心線地氣障害の場合) .....176

第 257 圖 1020號C 試驗器による障害發見 (ケーブル心線混線障害の場合) .....177

第 258 圖 壓縮空氣送入裝置圖 .....178

第 259 圖 端子函又は配線函に收容せる線番號により障害位置を判定する説明圖 .....183



第260圖	架空線路明細圖	.....189
第261圖	甲 ケーブル線路圖	.....190
	乙 ケーブル線路圖	.....191
第262圖	地下電話線路圖	.....192
第263圖	地下ケーブル分岐接続圖	.....193
第264圖	中繼ケーブル圖	.....194
第265圖	地下ケーブル位置圖及配線盤位置圖	.....195
第266圖	硫酸銅注入装置	.....198
第267圖	水流桶圖	.....199
第268圖	ゴム板片取付圖	.....200
第269圖	硫酸銅注入柱材取付装置圖	.....200
第270圖	リユース式クレオソート注入装置	.....203

## 表 索 引



## 表 索 引 (下)

第 21 表	紙管の寸法 .....	4
第 22 表	ケーブル接続鉛管の寸法及用途並に接続仕上り寸法 .....	9
第 23 表	同一對數ならざるケーブルのユニット相互の接続 .....	15
第 24 表	ゴム接続成端用接続鉛管 .....	48
第 25 表	架空ケーブル配線に於ける配線函又は端子函使用 標準並收容回線數 .....	82
第 26 表	一構内地下引込ケーブル配線の心線配分表 (第 220 圖参照) .....	119
第 27 表	特種集團地域地下引込ケーブル配線の心線配分表 (第 223 圖参照) .....	119
第 28 表	切替盤を採用せる場合の端子函使用標準並收容回線數 ...	120
第 29 表	屋内ケーブル配線の心線配分表(第 229 圖参照) .....	126

昭和 13 年 2 月 20 日印刷

昭和 13 年 2 月 25 日發行

東京市芝區高輪臺町 41 番地

財團 電氣通信工學校

著作兼 代表者 小船井敬吉  
發行者

東京市牛込區市谷臺町 22 番地

印刷者 甲田藤太郎

東京市牛込區市谷臺町 22 番地

印刷所 成武堂印刷所

東京市芝區高輪臺町 41 番地

發行所 財團 電氣通信工學校

電話高輪(44)3800番

振替口座東京 142485 番

【定價 95 錢】



特218

3PP



終